

稲盛アカデミー活動報告

I. 概要

1. 稲盛アカデミー

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業され、京セラ株式会社を創立された稲盛和夫氏京セラ株式会社名誉会長（鹿児島大学名誉博士）および京セラ株式会社からの寄付により、平成17年に学内共同教育研究施設「稲盛経営技術アカデミー」として設置され、平成20年に「稲盛アカデミー」へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」ことを基本理念としている。このため稲盛哲学（フィロソフィ）の探究および継承・発展を基盤に据え、人材育成を目指した教育研究および社会貢献（人間教育、経営教育、地域・国際連携）を展開するとともに、名誉博士創設の国際賞「京都賞」関連行事などを通じた地域および国内外との連携・協働を図っている。

(1) 学内向けプログラム

- ・ 共通教育科目の提供：「稲盛フィロソフィ」、「稲盛経営哲学」、「進取の精神」などに関わる科目の開設
- ・ 国内体験学習や海外研修などの学習機会の提供
- ・ 「京都賞」関連行事の開催

(2) 学外向けプログラム

- ・ 「履修証明プログラム」に基づく社会人向けプログラム「稲盛経営哲学」の実施
- ・ 「公開シンポジウム」、「特別セミナー」の実施
- ・ 「稲盛哲学」に関する国内外における研修の支援

2. 稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1) ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2) ベトナム社会主義共和国内の大学等との共同研究、(3) ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4) その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究および社会貢献に係る国際活動を推進するなど、国際的な交流活動を行っている。

3. 稲盛記念館

「稲盛記念館」は、本学の卒業生で、第一号の名誉博士である稲盛和夫鹿児島大学名誉博士より寄贈いただいたものである。

稲盛和夫名誉博士の長年のご足跡は、まさしく本学の教育理念である「進取の精神」の実践であり、本学学生、教職員、同窓生の誇りとするものである。

この稲盛記念館を、稲盛和夫名誉博士の哲学を学び、知の創造を刺激する場として活用させていただき、世界をリードする有為な人材の育成と地域・産業界との連携強化を図る。

(1) 京都賞ライブラリー（3階）

稲盛和夫名誉博士が私財を投じて設立された「稲盛財団」とその国際賞「京都賞」に関する内容を、パネルや映像等で紹介している。

●京都賞受賞者を中心に広がる世界（正面大型ディスプレイ）

複数名で同時に楽しめる大型インタラクティブ・ディスプレイでは、受賞者を中心に広がる世界を紹介している。浮遊している受賞者のアイコンをタッチすると、幼少期のエピソード、研究のきっかけ、作品・活動、京都賞の同じ分野の受賞者等といった関連するアイコンが集まってくる。

●映像による受賞者の紹介（4本の柱のディスプレイ）

4本の柱に設置されたディスプレイでは、一人ひとりの受賞者を紹介している。画面に触れると、さらに詳しく、プロフィールや業績、インタビュー等の貴重な映像がご覧いただける。

(2) 3階廊下「稲盛和夫名誉博士の歩みと功績」展示コーナー

稲盛和夫名誉博士が経営に携わった企業の紹介、思想、社会活動（母校 鹿児島大学への支援）を、パネルや展示物で紹介している。

(3) 1階－3階正面階段「稲盛和夫名誉博士の歩み 私と鹿児島」展示コーナー

稲盛和夫名誉博士が鹿児島で過ごされた幼少期から青年期の歩みを、パネルで紹介している。

(4) 1階－3階正面階段 閲覧用書籍コーナー

稲盛和夫名誉博士の著作や関連する書籍を展示紹介している。なお、こちらの本は館内でのみ閲覧が可能（持出禁止）。

(5) 1階エントランス メッセージ フィロソフィコーナー

稲盛和夫名誉博士の座右の銘「敬天愛人」（天を敬い人を愛す）が掲げられ、大型モニターにて稲盛名誉博士の紹介映像がご覧いただける。

Ⅱ. 令和4年度の主な活動内容

1. 履修証明プログラム「稲盛経営哲学プログラム」の実施

稲盛アカデミーでは社会人向けに履修証明プログラム「稲盛経営哲学プログラム」を11期にわたって開講してきた。

履修証明プログラムとは、1つのテーマで60時間以上のプログラムを実施し、受講生には学校教育法第105条により、そのプログラムの履修証明書が授与されるというものである。

内容は「稲盛和夫の歩み」や「実学—経営と会計—」、「アメーバ経営論」などを中心としたもので、第4期からは実際に企業経営に当たられる実務家の講師による「実践経営論」、第5期からは客員教授による「稲盛フィロソフィ」を加えている。

これまで382名の修了者を輩出し、企業や地域社会において本プログラムで学ばれたことを活かした実践をされている。

令和4年度は11期目となり、進取の精神を涵養し、経営者や地域社会のリーダーとして活躍する人材を養成することを目的に、令和4年9月から15回、総時間90時間開講された。修了者は約6ヶ月にわたり、『稲盛経営哲学の成り立ち』、『稲盛和夫の歩み』、『稲盛和夫の経営問答』、『実学—経営と会計—』、『アメーバ経営論』、『実践経営論』、『稲盛フィロソフィ』、『組織運営とリーダー論』の8つの科目を体系的に学び、稲盛経営哲学の理論と実践の両面について幅広い知識を修得した。

第11期履修証明プログラムの開講内容は下記のとおり。

| 講義名 | 時間数 | 担当講師 | 備考 |
|-------------|---------|-------------------------------|---------------------------|
| 稲盛経営哲学の成り立ち | 4.5 時間 | 武隈 晃 吉田 健一 | |
| 稲盛和夫の歩み | 9 時間 | 吉田 健一 | |
| 稲盛和夫の経営問答 | 4.5 時間 | 吉田 健一 劉 美玲 | 共同担当：園田 博昭 |
| 実学—経営と会計— | 10.5 時間 | 吉田 健一 劉 美玲 | |
| アメーバ経営論 | 19.5 時間 | 劉 美玲 吉田 健一 | 工場見学6時間を含む。 共同担当：園田 博昭 |
| 実践経営論 | 9 時間 | 吉田 健一 (責任者) | ゲスト講師（企業経営者等）6名による講義。 |
| 稲盛フィロソフィ | 24 時間 | 日置 弘一郎 高 巖 三矢 裕 青山 敦 | 客員教授4名による講義。 |
| 組織運営とリーダー論 | 9 時間 | 吉田 健一 劉 美玲 | 共同担当：園田 博昭 |
| 合計 | 90 時間 | | |

令和5年3月11日には「稲盛経営哲学プログラム」(第11期) 修了式をハイブリッドにて開催し、33名が修了した。修了式では、武隈 晃 稲盛アカデミー長より修了者一人ひとりに履修証明書の読み上げを行った。続いて、佐野 輝学長の挨拶（代読）では、「今後、企業経営、地域社会のリーダーとして地域活性化の原動力として活躍されることを心よりご期待申し上げる」と、お祝いの言葉を贈った。また、武隈アカデミー長からは、「本日でたく修了式を迎えられた皆様は、今回の学びをそれぞれの職業生活や日常生活に活かしていただくことを切に念じている」との挨拶があった。

2. 稲盛アカデミー公開シンポジウムの開催

稲盛アカデミーでは、稲盛和夫名誉博士の経営哲学とそれに基づく成果を広く社会に開示する公開シンポジウムを開催してきた。

第10回公開シンポジウムは、令和4年12月4日に稲盛会館キミ&ケサメモリアルホールにおいて、約90名の参加者を迎え開催した。

「稲盛フィロソフィを学ぶ—経営における誠実さとは何か—」と題した今回のシンポジウムでは、一橋大学大学院経営管理研究科教授の田中一弘氏（稲盛和夫研究会・経営哲学研究分科会会長）をお迎えし、「稲盛「経営哲学」と〈誠実さ〉」の演題で第1部の基調講演を頂いた。

田中氏は京セラ創業直後の稲盛名誉博士が、その時点では技術的にできるかどうか分からなかった困難な注文も、従業員のために引きうけ、納期までに完成させたとのエピソードを紹介され、「注文を取った後に「虚」を「実」にするために稲盛さんは、猛烈な努力をされた」、「稲盛さんには、約束した時点で能力が欠けていても、実現させる意志があった」と稲盛名誉博士の経営における誠実さについて述べられた。また、田中氏は、「馬鹿正直」と「真っ赤な嘘」の間に「回りくどい〈誠実さ〉」があり、「回りくどい〈誠実さ〉」によって、約束したことを実現して来られた稲盛名誉博士の経営について語られた。

第2部のパネルディスカッションでは、本アカデミー劉美玲講師がモデレーターを務め、田中氏の他、粕谷昌志氏（京セラ株式会社稲盛ライブラリー研究出版課責任者・本アカデミー客員教授）、高巖氏（明治大学経営学部特任教授・本アカデミー客員教授）、本アカデミー吉田健一准教授が稲盛名誉博士の経営における「誠実さ」について議論した。

高氏からは、「誠実さは相手の経験や知識にも依存する」との発言があり、長く側近として稲盛名誉博士の近くで仕事をされてきた粕谷氏からは、「決断をされる前には必ず心を整えるために沈黙考された」などの貴重な稲盛名誉博士の生前のエピソードが語られた。

今回は稲盛和夫名誉博士が本年8月24日にお亡くなりなられて初めての公開シンポジウムとなった。稲盛名誉博士の生前のご遺徳を偲ぶとともに、経営における「誠実さ」の意味するところについて参加者とともに思索を深める貴重な機会となった。

これまでのシンポジウムの開催年月日とテーマは下記のとおり。

| 回 | 開催年月日 | テーマ |
|------|-------------|---|
| 第1回 | 2015年2月15日 | 「経営哲学の浸透—JAL再生を題材として—」(1) |
| 第2回 | 2015年9月12日 | 「経営哲学の浸透—JAL再生を題材として—」(2) |
| 第3回 | 2016年2月14日 | 「経営哲学の浸透—JAL再生を題材として—」(3) |
| 第4回 | 2016年9月30日 | 「稲盛フィロソフィは、なぜ社会を動かせるのか」 |
| 第5回 | 2018年2月11日 | 「地域産業・中小規模組織と稲盛経営哲学」 |
| 第6回 | 2019年2月2日 | 「稲盛思想を紐解く」 |
| 第7回 | 2019年12月13日 | 「京セラフィロソフィに学ぶ—企業は如何にして発展を遂げるのか—」 |
| 第8回 | 2021年2月21日 | 「コロナ禍における企業（組織）の危機管理とフィロソフィ」（特別セミナーとして開催） |
| 第9回 | 2021年12月5日 | 「利他の経営—稲盛経営哲学の真髓を学ぶ—」 |
| 第10回 | 2022年12月4日 | 「稲盛フィロソフィを学ぶ—経営における誠実さとは何か—」 |

3. 稲盛アカデミー研究紀要 第12号の刊行

令和5年3月に「稲盛アカデミー研究紀要」第12号を刊行した。第12号では、所属教員の論稿と共に、「利他の経営—稲盛経営哲学の真髓を学ぶ—」をテーマに開催した令和3年12月の第9

回稲盛アカデミー公開シンポジウムの第1部の日置 弘一郎氏による基調講演「利他について」、第2部の日置氏とともに『利他の構造』を共同で執筆された方々、経営哲学研究の専門家によるディスカッションを収録している。

4. 共通教育科目の開講

令和4年度は「稲盛和夫のリーダー論」、「アメーバ経営」など14の共通教育科目を開講している。

「大学と地域」の中では「稲盛フィロソフィ」の講義も行っている。「大学と地域」は鹿児島大学に入学した全ての新生が1学年時に受講する科目である。郷土鹿児島が生み出した経営者である稲盛和夫名誉博士のフィロソフィに関する講義が入れられたことにより、鹿児島大学に入学した全ての学生が稲盛名誉博士の基本的なフィロソフィに触れることができる。

5. 京都賞ウィーク特別企画展を開催

京都賞は京セラ株式会社名誉会長の稲盛和夫氏により設立された稲盛財団が運営し、科学や文明の発展と人類の精神的深化高揚に著しく貢献した人々に贈られる国際賞である。

第37回京都賞は、先端技術部門がエレクトロニクス分野のカーヴァー・ミード博士（電子工学者・応用物理学者）、基礎科学部門が生物科学（進化・行動・生態・環境）分野のブライアン・T・グレンフェル博士（集団生物学者）、思想・芸術部門が音楽分野のザーキル・フセイン氏（タブラー奏者）の3名が受賞された。

京都賞ウィーク期間の令和4年11月15日～12月19日に、稲盛記念館3階において、ファカルティラウンジを中心に第37回（令和4年）京都賞受賞者の紹介や、稲盛和夫氏の歩みなどを、パネルや写真、展示物で紹介した。

6. 学生海外研修「進取の精神海外研修 in ベトナム」の実施

稲盛アカデミーでは、学生海外研修「進取の精神海外研修 in ベトナム」を平成26年度から実施している。本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則し、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度（進取の精神）を養い、グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育むことである。

授業では、まず、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解するために、本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学ぶ。日本と同様に中国より仏教や文化が伝播したベトナムでは、ベトナム国民は長い間、中国、フランスによる長期間の侵略やベトナム戦争に堪え、今日に至るまで国土の復興と産業や文化の振興に懸命に取り組んでいる。

さらにベトナムを直接訪問し、農業、産業、工業などベトナムの様々な取り組みを実際に体験し、様々な立場で国の発展を支えている多くのベトナム国民と交流する。また、稲盛アカデミーベトナム事務所日本語・日本事情を学び本学への留学に果敢に挑戦する若者や、ベトナム支援活動等を行っている日本人の若者とも交流する。

これらの事前事後の講義や現地での体験学習を通じて、ベトナム文化、歴史、産業の実態を深く理解し、進取の精神を涵養するとともに、グローバルな視点を持った実践力を育む。

令和4年度の研修は、8月31日～9月7日に実施され、6人の学生が参加した。旧市街地の文

化的施設の見学や現地中学校での交流などでは、ベトナムの歴史や文化、教育などを実体験し、JICA のプロジェクト現場や京セラ工場では、ベトナムの経済発展において日本や日本企業が果たしてきた役割について学んだ。さらに、ベトナムの農業、工芸等を見学・体験することで、村や集落の単位による伝統的運営方法を学び、その利点と課題について考えた。参加した学生にとっては、文化の多様性やグローバルな視点を持つことの重要性、さらには、社会における自分の役割などを考える貴重な機会となった。

7. 稲盛和夫名誉博士お別れの会に協力

令和4年8月にご逝去された稲盛和夫名誉博士に哀悼の意を表するとともに、生前のご功績への敬意と本学への多大なるご寄付に感謝し、「稲盛和夫名誉博士お別れの会」（令和4年12月19日開催）に協力した。さらに、稲盛和夫名誉博士の哲学を学ぶ機会として、稲盛氏の足跡やご功績をパネルにしたメモリアル展示を行った。お別れの会には約800名が献花に訪れ、大勢の学生や一般の方が稲盛和夫名誉博士の足跡や哲学を学ぶことができた。